

27 癒着性イレウスに対する無管による高気圧酸素療法の治療成績

小池祥一郎 中川 幹 中村俊幸 赤羽康彦
国立病院機構松本病院外科

癒着性イレウスに対して胃管やイレウス管の併用なしに高気圧酸素療法（以下HBO）を第一選択として行い、その効果を判定した。

【対象および方法】対象は1999年10月から2007年4月までにHBOを施行した癒着性イレウス223例で男性156例，女性67例。開腹術後に腹痛，嘔吐などのイレウス症状を呈し，腹部Xp上明らかな鏡面像を認め，絞扼性や癌性イレウス，急性腸炎などが否定されたものとした。初回症例では必ず腹部CTを行い，閉塞部位の同定と原因疾患の鑑別を行った。治療方法は胃管，イレウス管を併用せず，HBOは第1種装置（SECHRIST社製2500B）を用い，2.5気圧，60分を1日1回行った。排ガス，排便の有無，腹部単純Xpにて効果判定を行い，HBO5回施行後も改善のないものに対してはイレウス管を挿入した。

【結果】223例中207例がHBO単独で解除され，解除率は93%であった。HBOの平均施行回数は2.2回で98%が3回までで解除された。無効14例中13例はイレウス管に移行し（1例は希望により手術），7例が保存的に解除，6例でイレウス解除術を行った。手術移行率は3%であった。またイレウス解除後に患者の希望により待機的に手術を行ったのは6例であった。HBOの副作用としては耳痛，減圧中の嘔吐，不整脈を認めたがいずれも軽微であり，重篤なものはない。

【結語】胃管，イレウス管なしのHBOは，非侵襲的で，苦痛も少なく，有効であると考えられた。

28 網膜中心静脈閉塞症に対する高気圧酸素療法

井上 治¹⁾ 加治屋志郎²⁾ 澤口昭一²⁾ 野崎浩司¹⁾

〔1) 琉球大学医学部附属病院高気圧治療部〕
〔2) 同 眼科〕

【目的】網膜中心静脈閉塞症（CRVO）は主に中高年に発生し，ウロキナーゼやステロイドの投与，光凝固などが行われるが予後不良であることが多い。CRVOに対する高気圧酸素療法（HBO）は有効とする報告もあるが，興味ある知見が得られたので報告する。

【症例/方法】過去18年間47例50眼を対象とし，平均62歳（男27，女20）で，糖尿病性網脈症との合併は含まれていない。発症すなわち急激な視力低下からHBO開始まで1カ月以内は31眼であった。HBOは平成1～8年は2.0 ATA=60分/日，平成9～12年は2.4 ATA=60分/日，平成13～18年は2.8 ATA=60分/日で週5～6回施行した。矯正視力（視力）で評価し，手動覚以下は視力0.01とした。HBO開始時の視力をHBO治療中～終了時における視力，およびHBO終了後1カ月の視力と比較した。

【結果】評価可能であった46眼においてHBO施行期間内で2段階以上の改善（有効）が13眼（28%）で得られた。HBOを施行気圧別に評価すると2段階以上の視力改善が2.8 ATAでは13眼中6眼（46%），2.4 ATAでは12眼中3眼（25%），2.0 ATAでは21眼中4眼（19%）であった。一方，HBO施行中に2段階以上の改善が得られた13眼ではHBO終了後1カ月には6眼に減少したが，HBO 2.8 ATAで2段階以上改善した6眼では1ヶ月後4眼，2.4ATAで2段階以上改善した3眼では1ヶ月後2眼，2.0ATAで2段階以上改善した4眼では1ヶ月後0眼となった。

発症からHBO開始までの期間が7日以内の8眼では平均0.7段階，8日以上1ヶ月以内の19眼では平均1.7段階，1～3ヶ月以内の8眼では平均1.8段階，4ヶ月～1年の7眼では平均1.8段階の改善が得られた。

【結論】HBOは治療圧が高いほど視力は良く改善し，改善後の視力低下も少なかったことからCRVOに対するHBOの有効性が示唆された。発症1週間以内に行ったHBOの治療成績が不良であった理由は不明だが，光凝固などの眼科的治療を行った後にHBOを適応とすべきかも知れない。